

2026年2月12日  
2025年度RAサミット

# 寮が育てる学びと共生社会

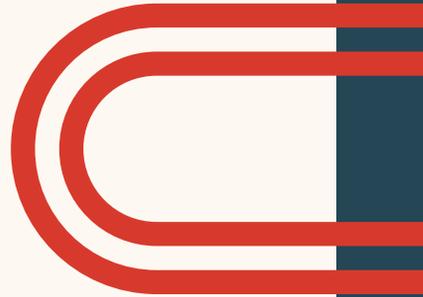
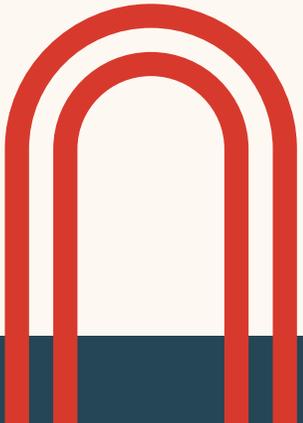
中央大学 吉田千春



# 今日の問い

①寮の教育的価値とは何か

②なぜ今、寮を「共生」の観点から捉え直す必要があるのか



# RAのアンケートから見える「寮の学び」

## 方法

- Google Formでアンケートを実施

## 対象者

- 今日参加を予定しているRA(ドーマーの寮生が中心)

## 回答数

- 42名

### <質問項目>

Q1.あなたにとって「寮」とは、一言で言うとどんな場所ですか。

Q2. RAとして寮に関わる中で、「これは寮だからこそ学べた」、「寮だからこそ自分の成長につながった」と感じた経験と、その理由を一つ教えてください。

Q3.RAとして寮に関わる中で、寮という場だからこそ難しかったこと・悩んだことがあれば、一つ教えてください。その理由もお願いします。

Q4.上記Q3で挙げた経験を通して、あなた自身にどのような気づきや変化がありましたか。

Q5.寮での経験は、これから社会でどのような場面で生きると思いますか。

# 「あなたにとって寮とは(一言で)」

集まる 過ごせる 距離感 気配 一息 人間関係 帰る  
育てる リハーサル 共同 つながり 増える  
住居 ひと息 とる くつろげる place つける 年代  
持つ 寝食 安心 できる 安心感  
帰る場所 生活 寮 他人 交流 共同体 出る  
気楽な 寮母 深い関係 心がける 社会  
快適な 思い出 寮長 好む 大家族 過ごす  
体験 話せる 形成 コミュニティ 気軽な  
新しい 楽しい 付き合う

# 「寮だからこそ学べた・成長につながったこと」

(回答数:n=36)

## 1. 共同生活における配慮と相互尊重 (n=10)

- お互いに配慮し合いながら生活すること
- 親しい関係の中でも相手を尊重する姿勢の大切さ
- 共有スペースをきれいに使う、清潔さへの配慮
- 協力し、相手のことも考えて行動する社会性 など

## 2. 多様な背景を前提とした相互理解 (n=9)

- 留学生の対応・外国語でのコミュニケーション
- 異なる国・文化・価値観を持つ人との共同生活
- 日本人中心にならないように寮運営を意識した経験
- 属性や肩書きにとらわれないフラットな関係形成  
など

## 3. 関係性の近さを踏まえた人との 関わり方と葛藤への向き合い (n=10)

- 距離が近い中で、信頼を築く行動
- 自分と他者との距離の縮め方
- 言いづらいことをどう伝えるかという力
- 異なる生活スタイルへの対応 など

## 4. 寮生活を支える役割意識と実践 (n=9)

- 寮生を楽しませるために考え、行動した経験
- 多様な寮生の声をまとめ、形にする力
- 先輩から学び、後輩へ還元する経験
- 受け身ではなく、自ら動く姿勢の形成 など

➡ 多様な背景を持つ他者と生活を共にしながら、相互理解と尊重を基盤に、よりよい関係の築き方を日常の中で模索し、実践的に学ぶ場(=共生の場)である。

# 「寮だからこそ難しかったこと」

(回答数:n=41)

## 1. ゴミ・清潔さ・共有物の扱い (n=8)

- ・キッチンが汚れる
- ・放置された私物
- ・清潔さの基準が合わない
- ・共有物を大切にしない

➡生活習慣・価値観の違いが公共空間の摩擦として表す問題

## 2. 人間関係の近さゆえの距離・役割の難しさ (n=9)

- ・注意や指摘がしづらい
- ・仲良くなりすぎても／ならなさすぎても暮らしにくい
- ・友人としての自分とRAの役割の葛藤
- ・相談を受ける側の心理負担

➡関係性が近い環境で、役割と感情をどう調整するかという問題

## 3. 多様な背景・価値観の中での調整・決定の難しさ (n=15)

- ・留学生・学年・生活リズムの違い
- ・反対意見・消極的な意見への対応
- ・「全員が納得する」決定ができない
- ・どんな企画が「よい」のか分からない

➡多様な人がいる中で、合意形成や意思決定を行うことの難しさ

## 4. 多様な背景・現実的な制約の難しさ (n=9)

- ・日程調整・集客の困難
- ・学業・アルバイトとの両立
- ・学生主体でも決定権は弱い
- ・理想通りに進まない現実

➡理想や理念と、制度・時間・組織構造とのあいだに生じる困難

➡寮が社会の縮図であることを表している

# 共生に向かうためには

大学の教育寮＝多様な人たちと共生する社会の縮図



共生に向かうには、寮で起きている出来事を、どう意味づけ、対応していくか

＜例：回避する場合＞  
・避ける／不可視化する  
➡不満の蓄積・分断の可能性

＜例：向き合う場合＞  
捉え直す／理解の深化  
➡共生に向かう可能性

➡構造・制度・共通理解があるかが重要

# 寮における共生の定義

「寮生活を通して、  
対等な関係のもとで互いの違いを認め合い、  
対話を通じて関係を築き、学び合うプロセス」

総務省(2006)多文化共生の定義、神吉(2006)共生の定義を踏まえて、  
定義した吉田(2024)の寮の定義を一部修正したもの

# 寮を共生の観点から見る3つの問い

## 1. 対等な関係が保障されているか。

例) 声が届きにくい人はいないか / 属性で序列が生まれていないか / 役割の違い = 上下関係ではないか

## 2. 違いを認め合える土壌があるか。

例) 違いを「迷惑」と決めつけていないか / 「合わせる前提」になっていないか / 背景を理解しようとしている

か

## 3. 対話を通じた関係構築、問題解決がされているか。

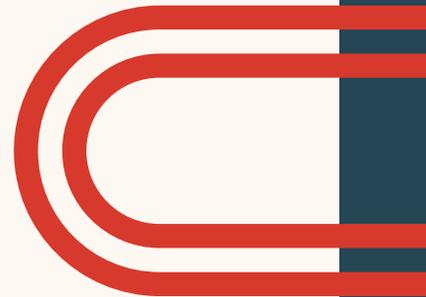
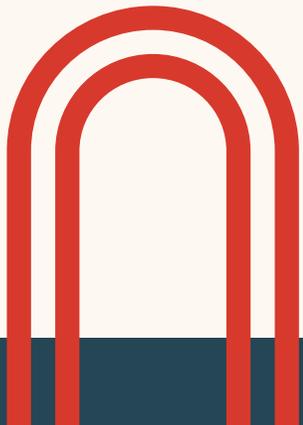
例) 回避や陰口で終わっていないか / 問題を直接話し合えているか / 関係を続ける努力があるか

# これまで語られてきた寮の教育的価値

- ・社会人基礎力の育成
- ・グローバル人材育成
- ・国際交流の場
- ・国内留学

など

(リクルートカレッジメント 2013; 大学時報 2019など)



# 共生の観点からみた寮の教育的価値

## 寮(生活を共にする場)でなければならないことは何か？

### ① 違いや問題があっても逃げずに向き合う経験

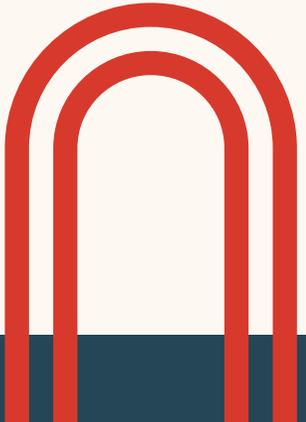
授業やイベントは逃げ場があるが、寮は日常の中で向き合わざるを得ない環境

### ② 関係を切らずに続ける経験

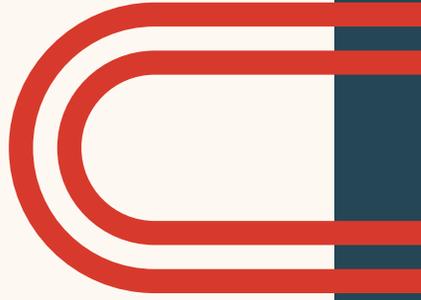
気まずくても、衝突しても同じ場で暮らさなくてはならない環境

### ③ 対話によって共に暮らす方法を探る経験

答えのない中で、どう折り合いをつけるか実践的に試行錯誤する場



➡ 寮は共生を実践的に学べる希少な場である。  
一方で、共生を軸に捉えなければ、違いや困難は  
排除・同化・分断などを生み出す力にもなる。



# ★共生の観点からみた RAのリーダーシップ

## ＜問題を処理するリーダー＞

- ・管理する
- ・正解をすぐに示す
- ・問題を早く収束させる
- ・自分が解決する

## ＜関係を育てるリーダー＞

- ・関係を育て、対話の場をつくる
- ・正解を急がず、共に考える
- ・背景を丁寧に見る
- ・当事者を支える

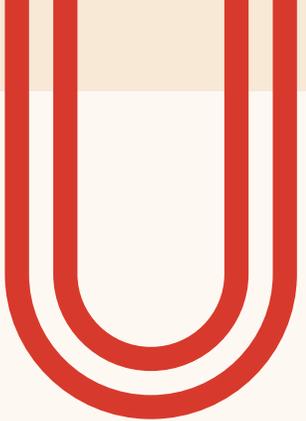
➡ 共生の観点からみると、関係を育てる力をより重要な視点として位置づける必要がある。

# 寮から社会へ

- ・寮は、違いと向き合う経験が日常的に生まれる場
- ・共生に向き合う力は、知識ではなく「経験」の中で育つ
- ・寮を、共生を実践的に学ぶ教育の場として捉え直す



寮での共生の経験が身体化されるとき、  
社会でも、違いと向き合い、対話を選び続けられる人が育つ。  
その積み重ねが、社会のあり方にも影響を与えていく…？



# 参考文献

神吉宇一(2024)「日本語学習はほんとうに必要なか」『解放教育』859, 4-11

総務省(2006)「多文化共生の推進に関する研究会報告書 ～地域における多文化共生の推進に向けて」

大学時報(2019)「特集 学生寮を活用した国際交流, グローバル人材育成の試み」『日本私立大学連盟』

吉田千春(2025)「国際寮における非対称性と共生の課題: 留学生の葛藤に着目して」『人文研紀要』361-389

リクルートカレッジメント(2013)「特集 寮内留学」『リクルートカレッジマネジメント』183, 4-32

**ご清聴ありがとうございました！**

